

寄書 善玉の種切

中山雅司

生れながらの天真爛漫を無難作に發揮せし裸體時代過ぎて人類の向上せし今日人は或る程度まで粧飾せざるべからず

固より道徳を顧みる違なき今日この社會にありて君子人たるは頗る難く殆ど君子人の種切となれり

常新新聞 刊夕日八十二月二 發行所 常磐毎日新聞社

治家の多くは鼻持のならぬ腐敗漢なり慷慨の志士に多く無頼の徒あり知名の紳士に暴戾の輩あり正直を賣物にして根性の太く屈つた奴あり仁俠を看板にして拘漢に驚べき無學無識の輩あり

看護婦派出の求めに應ず 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

山古印醬油 味美 經濟 帝國館

二月二十九日より替り寫眞 (續々名畫提供) 現代劇松本泰輔歌川八重子共演 純映畫 慕ひ寄る魂 全五卷

寄書 農村振興の實際方策を論ず (七) 不攀大岳人 近代世界の趨勢は滔々たる勢力を以て有形無形の個人の完成に進みつゝあるのである

類の發達進歩に欠くべからざるは食物の動物に於けるが如き關係にあるのである

きは爲政家の正に顧みるべき處ではあるまいか 殊に吾人は理論の上よりすらも現代教育政策の誤れる事を見せざるを得ないのである

株買中値 左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候 東新株 丸登株式店

平町各種營業者から 課税の軽減を陳情

各種營業者からの營業金額申告も従前は形式に止まり、税務署が租税額の査定をなす場合は殆んど税務署の見積りにより申告より二三割減らさるゝので平町各營業組合では各營業者の申告を成るべく尊重して課税の軽減を考慮せられたりと陳情することになり、吳服商組合では近く意見を纏めて平税務署に陳情書を提出する筈。

將校演習

若松聯隊の一團 若松歩兵第六十五聯隊將校廿名下士三名は現地戰術演習のため去る廿七日午前六時卅分の列車で來平し同日綴方面で演習をなし住吉屋支店に投宿二十八日歸營した。

可愛い お支度

だん／＼春めて來て、就學兒童をもつ家庭では、ごもも親も入學期を指折り數へて待つてゐます、今年の就學兒童は大正六年四月一日から七年四月二日までに

平町の 總豫算

八萬圓の減額 緊縮方針により 平町大正十三年度豫算町會は本日午前九時から開會され豫算委員に井上茂作、永山和平、中野甲藏、吉田定太郎、榎田榮太郎、坂本隆藏、柏原幸次郎の諸氏決算委員には山崎與三郎、小野園次郎、新田自善次郎、吉田伴吉、三井常松の諸氏を擧げて審議中であるが豫算總額は卅一萬四千卅圓六十圓四錢であつて緊縮方針を執つた爲め前年より五萬七千四百四十三圓卅六錢の減額

候補者も未だに決定を見ず具體的に至らぬが何れ近き將來に於て政友會では最も適任者を選定し極力當選を期す意氣込みである。

天然痘

系統は北海道 相馬郡大野村大字塚部荷馬車輓松田百泊(六)が本月七日北海道から歸り間もなく發病し次いで長男留太郎(七)は十八日留太郎娘(七)は廿五日發病廿六日診斷の結果いづれも天然痘と確定

慘死体漸く發見さる

腐爛して識別困難 入山第五坑の生理屍体發掘作業に關しては卅數名より成る決死隊に依つて連日連夜捜索中であつたが本廿八日午前五時廿分頃發火現場の第二坑道右二卸第三方下八間の場所に全身腐爛の屍體はれるを發見し次いで同十時廿分頃同所より四間

眞面目な問題

要すに女性に男性と共に人生を完成する正半を占めて居る。その意味に於て女性自ら重きものならば、自ら重きもの清きもの、高きものとなるがために、自ら重きねばならぬ。従來の如く男子に撰ま

遍照寺の 住職引致さる

悪行爲を平氣で居る強か者 神谷村大字下片寄遍照寺留在居住職石賀宏榮(三九)が檀家の人々を甘言を以て周旋料として金數百圓に亘つて騙取したことは既報の如くなるが四倉分署では管内たる爲め同人を引致目下嚴重に取調中なるが同人はかゝる悪行爲を何とも思はず平氣で居る強か者である。

女竊 湯本町の 壽亭の女中

石城郡湯本町大字湯本字表町當時不詳壽亭内女中中小松トメ(三)は去る廿日午後六時頃同町松坂イマ方より同人所有の金指輪一個代價三十圓餘を窃取した外同様手段に依り數回に亘つて金品を窃取したのを探知され目下平署で取調中である。

帝國館の替り寫眞 續々名高を擧げる帝國館明日から替り寫眞は現代劇「夢」の魂「天活」劇「太平洋を越えて」更劇「上杉謙信」取寄出羽守等、其他喜劇や實寫である。

を示し特別會計なる水道豫算は七萬八千八百九十圓五十七錢で是又前年より二萬三千五百四十一圓七十三錢の減である。

自強會主旨書昨報

城高等女學校に設立された自強會主旨書左の如し 畏くも昨年精神振興の詔を賜りたる我等は此の際愛校の精神を發揮して彌が上にも益々校風をよきよくせんことを茲に同志相護して此の會を組織したる所以なり

琵琶演奏會

平手錦輝氏が薩摩琵琶を教授する田町警水會本部にて

郷土人出版

諸根氏が主宰 平町南町新古圖書販賣店郷土社にて三月十日から諸根一氏を主幹とし四六二倍版八頁の「郷土人」と稱するリーフレットを月一回宛行し純粹郷土主義の資見に立脚し獨裁評論し、取り殘

育英資金の 増額が急務

寄附を募集し 本縣の育英資金は現在の所で卅九萬三千七十圓を有し貸費生百七十三人であるが將來此育英の實を擧げる爲にはその資金の増額を圖らねばならぬことは勿論であるが目下經濟界不況のためその實を擧げ得ず居るの

平町人事

出生 仲岡町 大平捨吉氏二男正高 立町 廣瀬中作氏長女キコノエ 死亡 胡麻澤 大平廣重(七)

牛飼養頭數

本郡約九千頭 本郡下各町村に於ける牛馬の飼養頭數は現在八千八百五頭であるが最も多く飼養して居るは田人、三阪、永戸上遠野、入遠野等の順序で其れが一ヶ年の税額は一頭二十錢で總額千七百七十圓だ。